(2) 沖縄の観光の動向

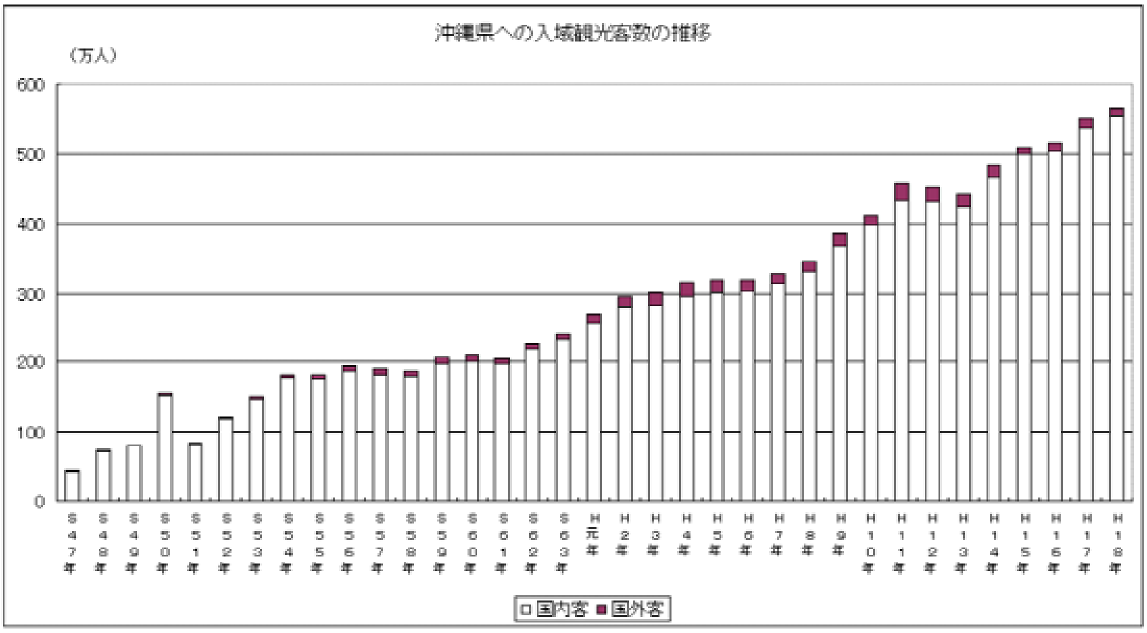
ア 入域観光客の動向

① 入域観光客数

本県への入域観光客数はおおむね好調に推移している。

米国同時多発テロ事件により平成１３年には落ち込んだものの、その後、官民一体となった誘客キャンペーンの展開や離島路線を中心とする航空路線の拡充、美ら海水族館などの大型観光関連施設の開設、大型コンベンションの開催、修学旅行の増加、沖縄人気の高まり、旅行商品の多様化などにより大幅に増加し、平成１８年の入域観光客数は過去最高の５６４万人を記録した。

しかし、入域観光客を国内外別にみると、平成１８年においては入域観光客数５６４万人のうち、外国客は９．３万人（構成比１．７%）にとどまっており、外国客の誘客対策の強化が求められている。



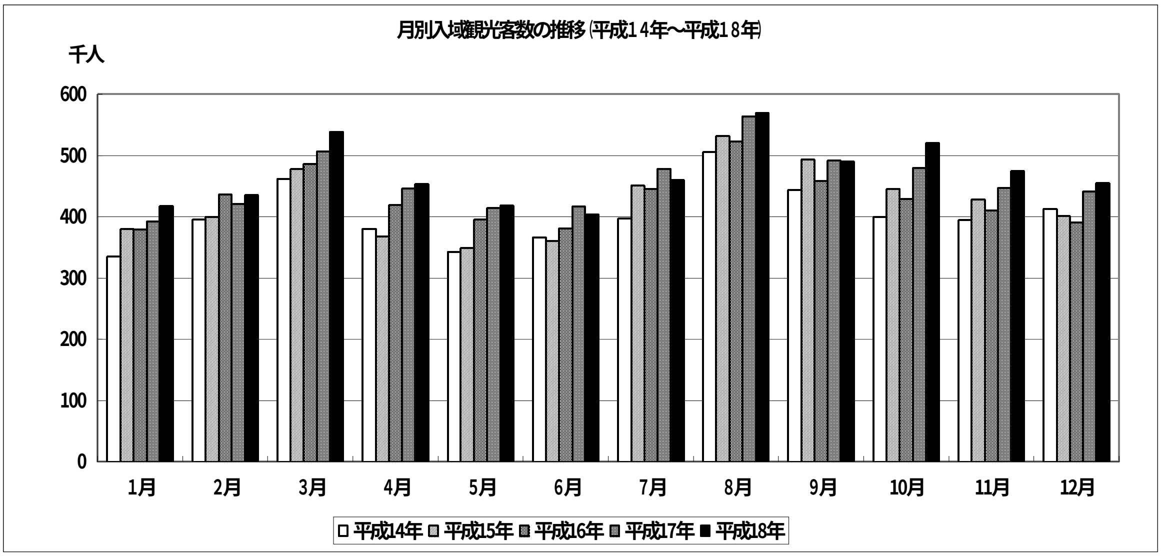
資料：沖縄県観光要覧

② 月別の動向

入域観光客の月別変動をみると、誘客キャンペーンの実施や修学旅行の誘致、リゾートウエディングなど新規市場の開拓等によりボトム期が底上げされ、平準化が図られつつある。

しかし、さらなる入域観光客数の増加を達成し、観光関連産業の健全育成や観光産業従事者の雇用安定を図るためにも、新たなマーケットの開拓など、さらなる通

年化に向けた取り組みが求められている。



資料：沖縄県観光要覧

③　地域別の観光客の動向

平成１５年度と平成１８年度の航空乗客アンケート調査の結果を比較すると、観光客の旅行先の内訳は、沖縄本島は＋２．１％、宮古島及び周辺離島は＋３．０％、石垣島及び周辺離島は＋１．８％となっているが、沖縄本島周辺離島は、△２．４％となっている。

また、平成１８年の主要離島への入域観光客数をみると、石垣島７７万人（対平成１４年比＋２５．９％）、宮古島４０万人（同＋１６．８％）、久米島９．１万人（同＋４．６％）、座間味村８．５万人（同△５．６％）、渡嘉敷村１０．５万人（同△４．９％）となっており、リピーターの増加や離島人気の高まりを背景におおむね増加傾向にあるものの、沖縄本島周辺離島への入れ込みは伸びていない。

観光客の旅行先

(単位：%)

	H15年度	H18年度	H18-H15
沖縄本島	82.3	84.4	+2.1
沖縄本島周辺離島(久米島含む)	9.1	6.7	△ 2.4
宮古島及び周辺離島	3.9	6.9	+3.0
石垣島及び周辺離島	14.9	16.7	+1.8

資料：沖縄県観光統計実態調査(航空乗客アンケート調査)

主要離島への入込観光客数

（単位：千人、％）

	H14年	H15年	H16年	H17年	H18年	H18/H14
石垣島	613	696	716	751	772	125.9%
宮古島	340	369	392	399	397	116.8%
久米島	87	100	95	95	91	104.6%
座間味島	90	96	85	88	85	94.4%
渡嘉敷島	110	113	96	104	105	95.5%
（参考）県全体	4,835	5,085	5,153	5,500	5,638	116.6%

資料：沖縄県観光要覧、座間味村、渡嘉敷村

④　航空路・航路別入域観光客数

平成１８年における航空路・航路別の入域観光客数は、東京方面２１４万人（対平成１４年比＋２０．３%)、関西方面１１０万人（同＋２７．７%)、福岡方面６８万人（同＋１０．２%)、名古屋方面４９万人（同＋２７．１%)、その他方面が８１万人（△４．２%）となっている。

東京、関西、名古屋方面は、観光客全体に占める構成比も増加しており、都市圏からの観光客が増加傾向にある。

航空路･航路別観光客数

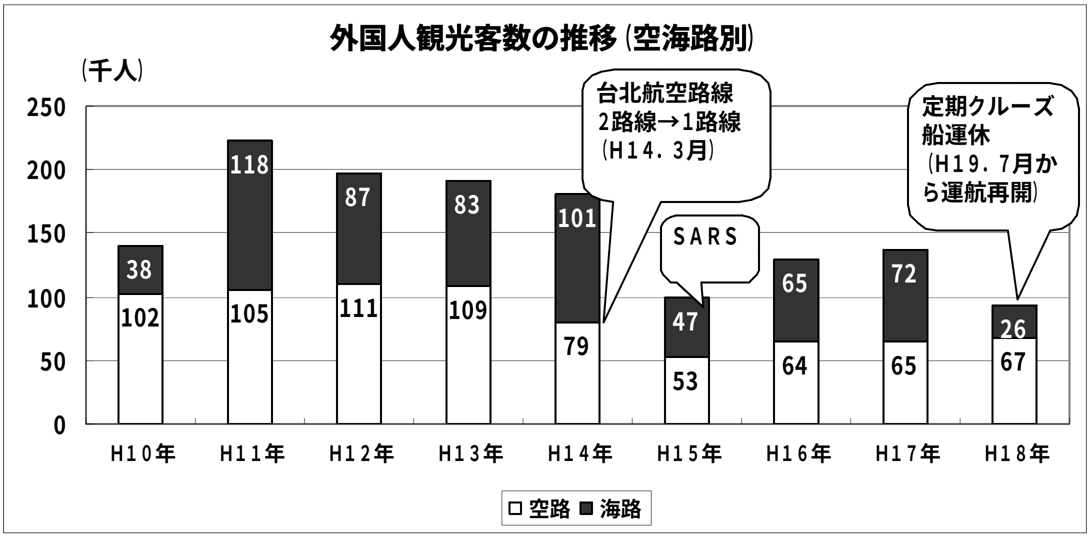
航路	平成14年		平成18年		
	観光客数（人）	構成比（%）	観光客数（人）	構成比（%）	H18/H14（%）
東京方面	2,137,200	44.2%	2,571,400	45.6%	120.3%
関西方面	858,000	17.7%	1,095,400	19.4%	127.7%
福岡方面	616,200	12.7%	679,200	12.0%	110.2%
名古屋方面	382,500	7.9%	486,300	8.6%	127.1%
その他方面	840,600	17.4%	805,500	14.3%	95.8%
合計	4,834,500	―	5,637,800	―	―

資料：沖縄県観光要覧

⑤　外国人観光客の動向

本県を訪れる外国人観光客数は、近年、航空路線の廃止、ＳＡＲＳ余波、定期クルーズ船の運休等の影響により、空路、海路ともに伸び悩んでいる。

今後、定期航空路線の開設、航空チャーター便及びさらなるクルーズ船の誘致・運航継続の働きかけ等のほか、各国・地域の実情にあった、戦略的な誘客活動を行っていく必要がある。



資料：沖縄県観光要覧

本県を訪れる外国人観光客の国籍別内訳をみると、やや減少傾向にあるものの依然として台湾が最も多く、平成１８年においては、特例上陸者（国際航路の乗務員などの一時上陸者等）を除く外国人観光客７万７千人のうち、４万１千人（構成比５３．３%）を占めている。

国籍別・空海路別入域外国人数

国籍	人数（人）					構成比（%）
	Ｈ１４	Ｈ１５	Ｈ１６	Ｈ１７	Ｈ１８	Ｈ１８
台湾	91,132	43,122	66,495	68,763	41,298	53.3%
香港	2,642	722	922	566	1,304	1.7%
韓国	4,957	5,628	5,053	6,848	10,508	13.6%
中国	1,838	1,184	1,749	1,739	3,033	3.9%
フィリピン	1,996	2,286	2,417	2,446	2,157	2.8%
アメリカ	12,917	10,113	8,906	9,264	10,632	13.7%
その他	5,066	4,716	4,949	5,849	8,550	11.0%
計	120,548	67,771	90,491	95,475	77,482	―

※　特例上陸及び協定該当者を除く。
※　香港は香港特別行政区旅券所持者及びイギリス政府発給ＢＮＯ旅券所持者の計。
資料：法務省「出入国管理統計年報」

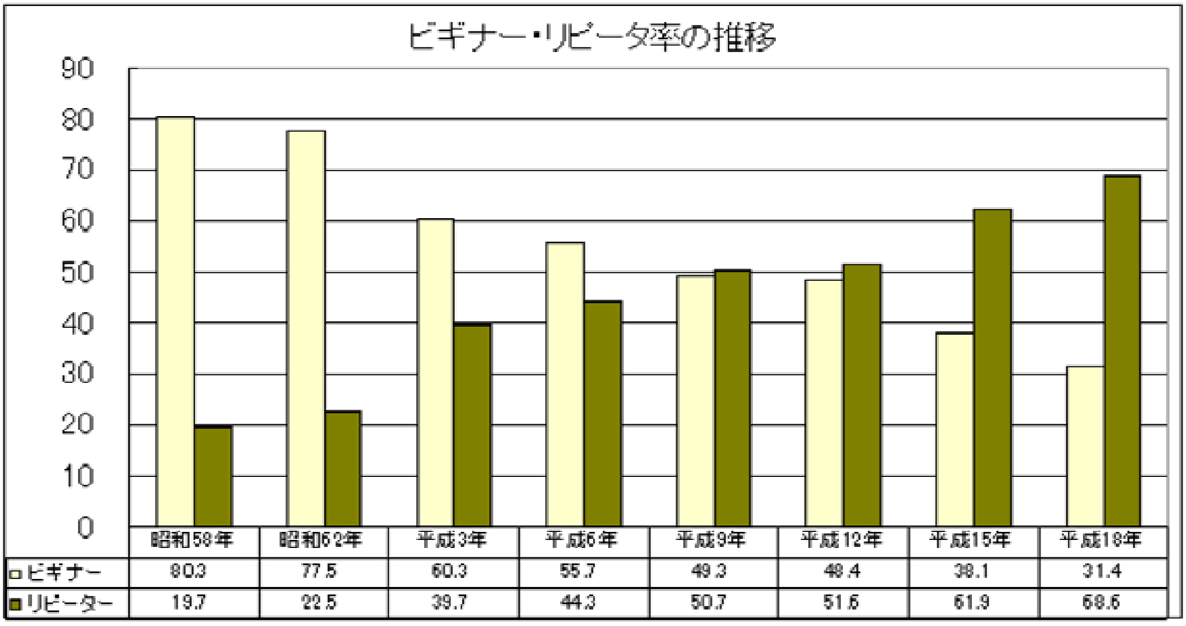
	Ｈ１４	Ｈ１５	Ｈ１６	Ｈ１７	Ｈ１８
特例上陸者数（人）	59,752	32,329	39,009	41,025	15,918
外国人観光客総数（人）	180,300	100,100	129,500	136,500	93,400

※　特例上陸者数は、沖縄県が推計。

イ　沖縄観光の主な特徴

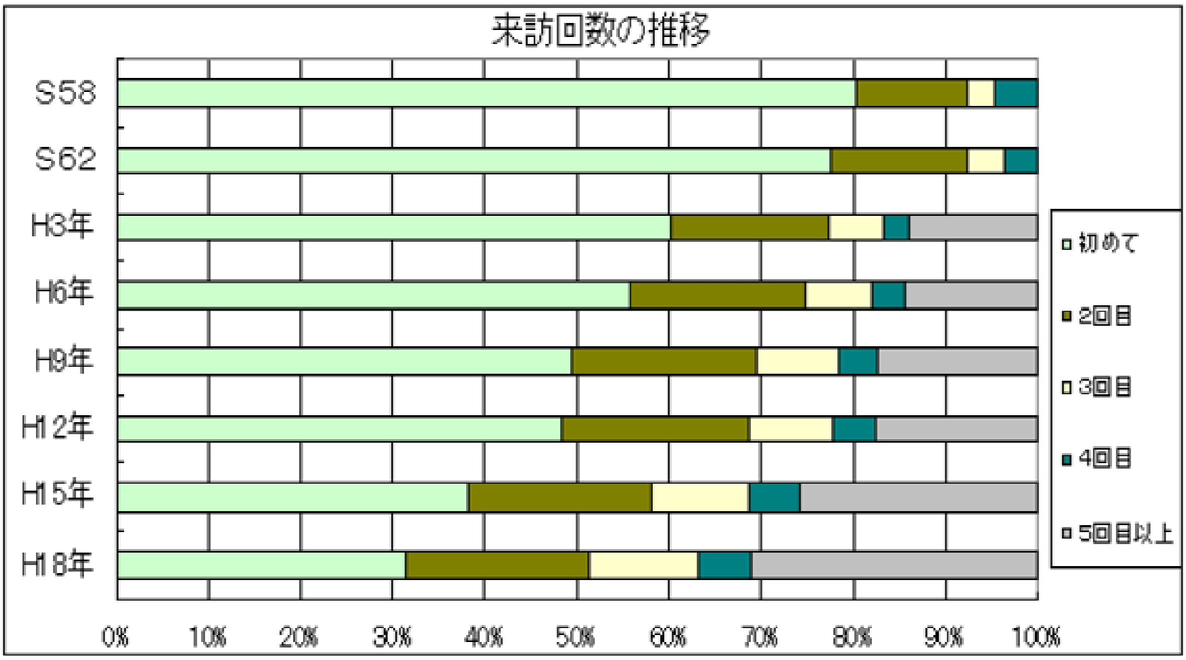
①　来訪回数

本県を訪れる観光客のうち、平成９年にビギナー（初回来訪者）とリピーター（再来訪者）の比率が逆転し、平成１８年にはリピーターの比率が６８．６％に達している。また、リピーターの中でも、４５．２％が５回目以上の来訪回数であり、平成１５年の４１．８％より比率が増えており、増加傾向にある。



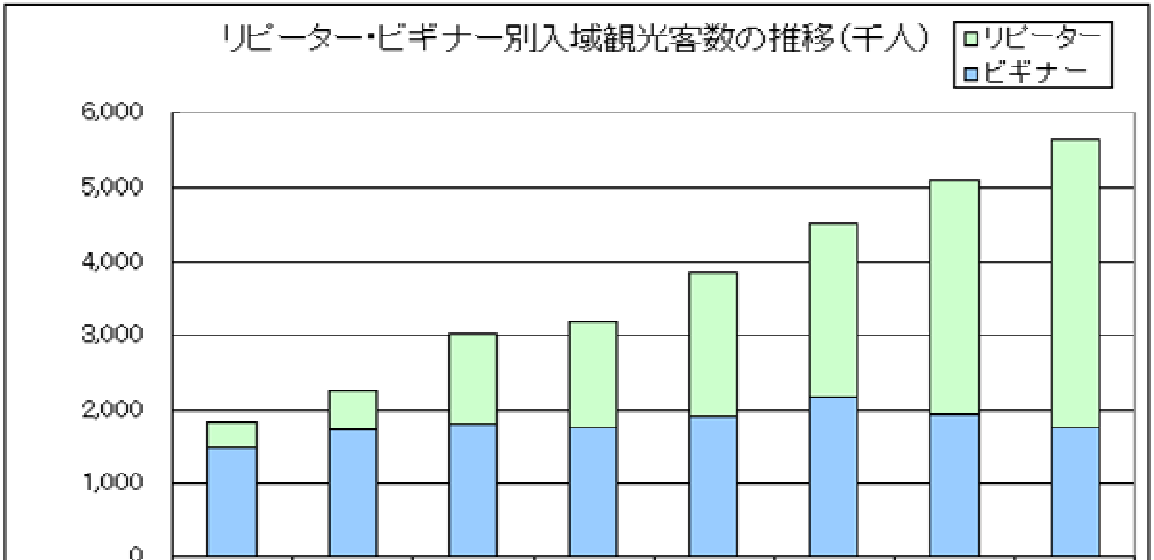
	昭和58年	昭和62年	平成3年	平成6年	平成9年	平成12年	平成15年	平成18年
ビギナー	80.3	77.5	60.3	55.7	49.3	48.4	38.1	31.4
リピーター	19.7	22.5	39.7	44.3	50.7	51.6	61.9	68.6

資料：観光統計実態調査



資料：観光統計実態調査

リピーター・ビギナーの比率を実際の入域観光客数のマーケット規模に推計すると、リピーターは著しく増加しているものの、ビギナーは減少傾向にある。

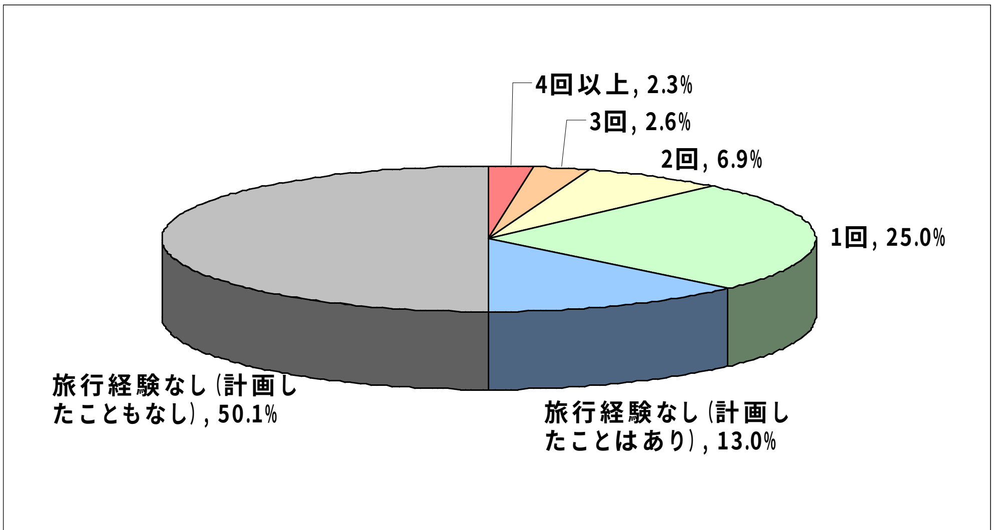


	昭和58年	昭和62年	平成3年	平成6年	平成9年	平成12年	平成15年	平成18年
リピーター	364	506	1,197	1,407	1,959	2,333	3,147	3,868
ビギナー	1,488	1,744	1,817	1,772	1,908	2,188	1,937	1,770

資料：観光統計実態調査、沖縄県観光要覧

今後、少子高齢化が進むこと、ビギナーの実数減は将来の観光客全体の減少につながることから、未来訪者マーケットの開拓が大きな課題となる。

全国消費者アンケート調査によると、国民の約６０％はまだ沖縄を訪れておらず、また、以前に沖縄旅行を計画はしたが実際には沖縄へは来なかった人の割合が１３パーセント、１回だけしか来たことがない人が２５％いる。



資料：全国消費者アンケート調査（平成１７年度観光統計実態調査）